

学校教育目標	「チーム文花中として、生きる力（豊かな心、確かな学力、健康・体力）を伸ばし、社会に貢献できる生徒を育む学校」を目指す。
目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・「分かる」「できる」「楽しい」が実感でき、確かな学力が身に付く学校 ・一人1台端末やICT機器の効果的な活用により、教育DXを推進する学校 ・人権を尊重し、昼間学級との交流など、多様な文化の理解を積極的に推進する学校 ・チーム文花中として、学校・家庭・地域が力を合わせ共に歩む学校
目指す生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な文化や互いの人権を尊重し、自他を大切にする生徒 ・学ぶことの意義と喜びを知り、夜間学級生としての誇りをもち、自ら学び・考える生徒 ・心身共に健康で、文武両道の精神をもち、何事にも粘り強く取り組む生徒 ・国際社会の一員として、社会に貢献できる生徒
目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対する教育的愛情と、教職に対する情熱・誇りをもち、協働できる教師 ・高い指導力をもち、生徒の生きる力（豊かな心、確かな学力、健康・体力）を伸ばせる教師 ・教育公務員として職責を自覚し、常に研鑽に励み、サービスの厳正を図ることができる教師

○令和7年度 学校経営計画における重点内容

- ・「分かる」「できる」「楽しい」が実感でき、確かな学力が身に付く学習指導
- ・基本的な生活習慣の定着と豊かな人間関係を育成する生活指導（いじめ・不登校の対策強化）
- ・自主的な活動の促進と感動ある学校行事の創造
- ・保護者・地域に開かれた学校づくり

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
各教科指導等	「分かる」「できる」「楽しい」が実感でき、確かな学力が身に付く学びの実現 ①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現	①年2回の相互授業見学、管理職による授業観察と指導・助言による授業力向上	4 実施回数100%	4	4 生徒アンケート関連項目の肯定的な回答90%以上	4	「授業の内容が理解できていますか」に関して、すべての教科において、肯定的な回答90%以上を達成した。	ICT機器の活用や補習授業など、ひとりひとりに適した学習環境を整え、授業内で「分かる」ことを重視した授業を実施した。	A	A	「分かる」ことを活用させ、「できる」につなげるために、生徒間同士が互いに学び合う環境も整えていく。
			3 実施回数95%以上		3 生徒アンケート関連項目の肯定的な回答85%以上						
			2 実施回数90%以上		2 生徒アンケート関連項目の肯定的な回答80%以上						
			1 実施回数90%未満		1 生徒アンケート関連項目の肯定的な回答80%未満						
	②組織的な日本語指導による確実な日本語習得 ③一人1台端末やICT機器の効果的な活用	②文部科学省の研究を活用した計画的な研修による日本語指導力向上	4 実施回数100%	4	4 年度末日本語学級生徒の90%以上がN4程度以上の日本語能力獲得	3	本年度入級した生徒に関して、N4程度の日本語能力を獲得した生徒は86%	日本語指導の専門として外部講師による授業観察を通じた指導助言により日本語指導力の向上を図る。	A	A	外部講師の指導助言により、日本語の授業の改善できた。
			3 実施回数95%以上		3 年度末日本語学級生徒の80%以上がN4程度以上の日本語能力獲得						
			2 実施回数90%以上		2 年度末日本語学級生徒の70%以上がN4程度以上の日本語能力獲得						
			1 実施回数90%未満		1 年度末日本語学級生徒の70%未満がN4程度以上の日本語能力獲得						
		③主幹・主任教諭による月1回のICT活用の研修による指導力向上	4 実施回数100%	4	4 生徒アンケート関連項目の肯定的な回答90%以上	3	毎月1回以上の研修を実施した。授業で活用する非常勤講師の割合が、37.5%向上した。	ICTを活用した語彙指導の研修などを、教員が主体的に実施した。非常勤講師のICT活用を推進した。	A	A	全教員がICT活用できる体制づくりをさらに進めていく。
			3 実施回数95%以上		3 生徒アンケート関連項目の肯定的な回答85%以上						
			2 実施回数90%以上		2 生徒アンケート関連項目の肯定的な回答80%以上						
			1 実施回数90%未満		1 生徒アンケート関連項目の肯定的な回答80%未満						
自主的な活動の促進と感動ある学校行事の創造	「人は環境で育つ。その環境は人がつくる。」という共通認識のもと、生徒会活動・行事・部活動で自主的な活動による、自ら集団を改善する精神の涵養	4 各行事で必ず実行委員による自主的な活動を取り入れた	3	4 各行事生徒アンケート満足度90%以上	4	各行事において、生徒アンケート満足度95%以上を達成した。	実行委員を生徒自身が主体的に取り組み、活発な意見が出る環境をつくる。	B	B	言語の壁などがあり、話し合いに時間がかかため、生徒の意見を十分に引き出せるゆとりある計画にする必要がある。	
		3 各行事で95%以上実行委員による自主的な活動を取り入れた		3 各行事生徒アンケート満足度80%以上							
		2 各行事で90%以上実行委員による自主的な活動を取り入れた		2 各行事生徒アンケート満足度70%以上							
		1 各行事で90%未満しか実行委員による自主的な活動を取り入れられなかった		1 各行事生徒アンケート満足度70%未満							

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
生活指導等	基本的な生活習慣の定着と豊かな人間関係の育成 ①挨拶や身だしなみ、時間や約束を守る指導を充実し、社会のマナーやルールを理解・実践できる生徒の育成	①それぞれの文化を尊重した日本のマナーやルールの習得	4	教員アンケート関連項目のA評価90%以上	4	関係者評価関連項目のA評価90%以上	関係者評価では、肯定的な評価100%であった。	授業、給食や掃除など学校生活のさまざまな場面で、日本のマナーやルールを習得させることを意識する。	A	A	多様な生徒が在籍しているため、互いに尊重する姿勢を大切にしながら、今後も日本で生活するために必要なマナーやルールを習得させる。
			3	教員アンケート関連項目のA評価80%以上	3	関係者評価関連項目のA評価80%以上					
			2	教員アンケート関連項目のA評価70%以上	2	関係者評価関連項目のA評価70%以上					
			1	教員アンケート関連項目のA評価70%未満	1	関係者評価関連項目のA評価70%未満					
	②すべての教育活動を通して、差別や偏見をなくし、自他の生命、人権を尊重する教育の推進	②昼間学級との年2回の交流、都夜中研合同行事による多文化共生社会教育の実施	4	各交流の完全実施	4	関係者評価関連項目のA評価90%以上	関係者評価では、肯定的な評価100%であったが、昼間学級との交流や地域行事の参加などを望む意見があった。	青少年育成委員会主催のふれあい祭りに生徒が参加するなど、地域に貢献する体験を	A	A	教員の働き方改革を意識しながら、昼間学級との交流を実現し、昼間生徒に多様性の理解を深めていきたい。
			3		3	関係者評価関連項目のA評価80%以上					
			2		2	関係者評価関連項目のA評価70%以上					
			1	各交流の一部未実施	1	関係者評価関連項目のA評価70%未満					
不登校・いじめ・問題行動の未然防止と適切な対応 ①不登校の未然防止と、意図的・計画的・組織的な対応による改善 ②いじめ・問題行動の未然防止と、意図的・計画的・組織的な対応による改善	①一人一役等による心の居場所づくりと、担任とSCとの連携による組織的な対応	4	毎週の情報交換と月1の学級会議の完全実施	4	80%出席率未達成による自主退学0	80%出席率未達成による自主退学0を実現した。	月1回の学級会議に加え、SC参加の月1回の特別委員会で生徒支援の具体的な方法を協議し、全体に情報共有した。	A	A	支援が必要な生徒に対し、SCが定期的なカウンセリングを実施するなど、組織的な対応につなげることができた。	
		3		3							
		2		2							
		1	毎週の情報交換と月1の学級会議の一部未実施	1	80%出席率未達成による自主退学有						
②道徳を中心としたすべての教育活動での心の教育。SC・教員によるカウンセリング・観察で早期発見し、即時対応・経過観察で改善する。	②道徳を中心としたすべての教育活動での心の教育。SC・教員によるカウンセリング・観察で早期発見し、即時対応・経過観察で改善する。	4	いじめ重大事故0	4	関係者評価関連項目のA評価90%以上	いじめ重大事故0、関係者評価関連項目のA評価100%を達成した。	SCによる全員面談を実施した。また、年3回の教育相談期間に生徒全員と担任が面談し、いじめ防止・早期発見を努めた。	A	A	生徒一人ひとりの人権を尊重した関わりを日常的に心がけ、今後も継続して実践していく。	
		3		3	関係者評価関連項目のA評価80%以上						
		2		2	関係者評価関連項目のA評価70%以上						
		1	いじめ重大事故発生	1	関係者評価関連項目のA評価70%未満						
学校管理運営	経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営の実施	企画調整会議・職員会議・月間PDCAを活用した全教職員からの主体的な改善と、管理職の分かりやすいビジョンの伝達による組織的な教育活動の実現	4	教職員アンケート関連項目のA評価90%以上	4	関係者評価関連項目のA評価90%以上	教職員アンケートでは、肯定的な評価100%であった。	月ごとに課題・改善策を検討する月間PDCAの運用により、教員が主体的に業務改善する組織風土をつくる。	A	A	教員ひとりひとりが課題と改善案を考える習慣が身についた。
			3	教職員アンケート関連項目のA評価80%以上	3	関係者評価関連項目のA評価80%以上					
			2	教職員アンケート関連項目のA評価70%以上	2	関係者評価関連項目のA評価70%以上					
			1	教職員アンケート関連項目のA評価70%未満	1	関係者評価関連項目のA評価70%未満					
各アンケートの活用による教育活動の改善	生徒・教職員・関係者アンケートを活用した教育活動の改善	4	各アンケートの完全実施	4	関係者評価関連項目のA評価90%以上	関係者評価関連項目では、肯定的な評価100%であった。	アンケートを多言語に対応することで、生徒の実態をより精緻に把握できるようする。	A	A	教職員アンケートでは課題だけでなく、良かった点も振り返り、次年度につなげることを意識した。	
		3		3	関係者評価関連項目のA評価80%以上						
		2		2	関係者評価関連項目のA評価70%以上						
		1	各アンケートの一部未実施	1	関係者評価関連項目のA評価70%未満						
学校予算の有効活用や区教育委員会との連携による適切な教育活動環境の整備	年1回の施設点検等を活用した施設の改善と、効率的な予算活用による教育設備の改善	4	教職員アンケート関連項目のA評価90%以上	4	関係者評価関連項目のA評価90%以上	教職員・関係者評価関連項目では、肯定的な評価100%であった。	施設の安全点検を組織的に行う体制が整っている。生徒の教育活動がより充実するために、必要な予算活用を行う。	A	B	予算活用を中長期的な視点で考える必要がある。	
		3	教職員アンケート関連項目のA評価80%以上	3	関係者評価関連項目のA評価80%以上						
		2	教職員アンケート関連項目のA評価70%以上	2	関係者評価関連項目のA評価70%以上						
		1	教職員アンケート関連項目のA評価70%未満	1	関係者評価関連項目のA評価70%未満						

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価				
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等		
家庭・地域連携	教育方針・教育活動の積極的でわかりやすい周知による、保護者・地域の理解・協力の深化	学校ホームページ・学校運営協議会等を活用した、積極的でわかりやすい周知	4	学校ホームページ閲覧回数昨年度比+10%以上	2	4	関係者評価関連項目のA評価90%以上	4	学校ホームページは通年では3%増となった。関係者からの評価は100%肯定的であったものの、地域への継続的な情報発信を望む声があった。	学校のチラシに本校のHPの二次元コードを入れるなど、改善を進める。また、夜間学級の魅力が伝わる内容を継続的に更新していく。	B	A	次年度に向けて、学校案内のチラシを改善していく。昨年度と比較し、HPの更新を10%増加させた。
			3	学校ホームページ閲覧回数昨年度比+5%以上		3	関係者評価関連項目のA評価80%以上						
			2	学校ホームページ閲覧回数昨年度比+5%未満		2	関係者評価関連項目のA評価70%以上						
			1	学校ホームページ閲覧回数昨年度比減		1	関係者評価関連項目のA評価70%未満						
	働き方改革も意識した、意図的・計画的・組織的な地域との連携	ゆかた体験・部活動指導等での連携	4	教職員アンケート関連項目のA評価90%以上	4	4	関係者評価関連項目のA評価90%以上	4	ゆかた体験や太鼓部の指導において、地域の方に協力・連携することができた。	地域の方が協力いただけることで、行事や部活動において教員の負担が軽減されている。今後も地域の方々と連携を推進していく。	A	A	次年度も継続するとともに、箏部の指導など地域の方に協力いただけることを検討していく。
			3	教職員アンケート関連項目のA評価80%以上		3	関係者評価関連項目のA評価80%以上						
			2	教職員アンケート関連項目のA評価70%以上		2	関係者評価関連項目のA評価70%以上						
			1	教職員アンケート関連項目のA評価70%未満		1	関係者評価関連項目のA評価70%未満						
	東京都夜間学校研究会連合行事や研究連絡協議会を活用した教育活動の連携	各部会の活動や各教科班会での授業研究を通じた、情報共有と授業力向上	4	教職員アンケート関連項目のA評価90%以上	4	4	関係者評価関連項目のA評価90%以上	4	東京都夜間学校研究会を通じた授業改善を進めることができた。	連合行事などで他校と連携を深め、よりよい教育活動につなげていく。	A	B	研究授業の観察時における補教体制の整備など、他の夜間学級間で学び合いができる環境を整える必要がある。
			3	教職員アンケート関連項目のA評価80%以上		3	関係者評価関連項目のA評価80%以上						
			2	教職員アンケート関連項目のA評価70%以上		2	関係者評価関連項目のA評価70%以上						
			1	教職員アンケート関連項目のA評価70%未満		1	関係者評価関連項目のA評価70%未満						

○令和7年度 学校経営報告のまとめ（総括）

・月間PDCAなどを活用して常に教育活動を改善した。本校夜間学級は日本語を母語としない生徒、日本以外の国にルーツをもつ生徒、比較的若い生徒が増加し、卒業後高校進学を希望する生徒が増えた。それに伴い指導する内容も変化している。今後も変化に対応できるように改善を続けていく。